

Requested Patent: JP58054431A
Title: DOCUMENT INPUT DEVICE ;
Abstracted Patent: JP58054431 ;
Publication Date: 1983-03-31 ;
Inventor(s): YONEDA KIYOSHI; others: 01 ;
Applicant(s): TOKYO SHIBAURA DENKI KK ;
Application Number: JP19810151393 19810926 ;
Priority Number(s): ;
IPC Classification: G06F3/02 ;
Equivalents: ;

AS

ABSTRACT:

PURPOSE: To make use of abbreviations easy and reduce input working by searching the complete spellings of abbreviations in a previously inputted document to expand them.

CONSTITUTION: A character-string inputted from a keyboard 1 is discriminated in a discrimination part 2 (Ex. a function key) whether it is a complete spelling or an abbreviation. In case of a complete spelling, the character-string is sent to a display part 3 and simultaneously stored in a storage part 4 as it is. In case of an abbreviation, the character-string is sent to the display part 3 and words in a document stored in the storage part 4 are retrieved in a retrieval part 5. When a corresponding word is found, the abbreviation is expanded to a complete spelling in an expansion part 6 and the complete spelling is sent to the display part 3 and stored in the storage part 4.

⑫ 公開特許公報 (A)

昭58—54431

⑪ Int. Cl.³
G 06 F 3/02

識別記号

庁内整理番号
6798—5B

⑬ 公開 昭和58年(1983)3月31日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 3 頁)

⑭ 文書入力装置

⑯ 特 願 昭56—151393

⑰ 出 願 昭56(1981)9月26日

⑱ 発 明 者 米田清

川崎市幸区小向東芝町1 東京芝
浦電気株式会社総合研究所内

⑲ 発 明 者 小島昌一

川崎市幸区小向東芝町1 東京芝
浦電気株式会社総合研究所内

⑳ 出 願 人 東京芝浦電気株式会社

川崎市幸区堀川町72番地

㉑ 代 理 人 弁理士 則近憲佑 外1名

明 細 書

1. 発明の名称 文書入力装置

2. 特許請求の範囲

鍵盤式文書入力装置において、入力された略綴りの完全な綴りを、既に入力された文書から抽出する機能を提供したことを特徴とする文書入力装置。

3. 発明の詳細な説明

本発明は、鍵盤を用いる文書入力装置に関する。

従来、打鍵時に略綴 (例えば、math) を入力し、それを、完全綴り (mathematics) に展開する場合、その入力装置に内蔵された変換表を用いることによって為されていた。

多くの使用者に対して共通に使用できる変換表を作ることは、多大の労力を要し、でき上がった変換表は、大きくなってしまいかかわらず、個々の使用者にとっては、変換表の多くの部分は、使用することが無く、また、必要な略綴が入っていない等の問題があった。

また、使用者毎に、固有の変換表を作る機能を持った入力装置の場合でも、使用者が、略綴を

変換へ登録するという作業をしなければならず、また、登録したものを、登録した形でだけしか展開することができなかった。

これらの欠点を除き、使用者に負担のかからない略綴展開を行える様にするのが本発明の目的である。

本発明によれば、既に入力された文書の中から、その略綴に対する完全綴りを捜し、略綴を展開するので、使用者は、初めに1回だけ完全な綴りを入力しておくことによって、その後は、略綴を使うことができ、また、略し方も固定されていない (例えば mathematics に対して math でも mathe でもよい) ので容易に略綴を使用でき、入力作業が軽減される。

本発明の一実施例を第1図に示す。

鍵盤1から入力された文字列は、判定部2で (例えばファンクションキー等によって) 完全綴りか略綴かを認識され、完全綴りの場合は表示部3へ送られると共に、そのまま記憶部4に記憶される。略綴の場合は、表示部3へ送られると共に、

今までに記憶部4に記憶されている文書の中の語を、検索部5で検索する。該当する(例えば、完全綴りの語で、その部分文字列(サブストリング)が当該略語であるような)語が見つかり、展開部6で略語を完全綴りに展開し、表示部3に送ると共に、記憶部4に記憶する。

本実施例においては、変換表を用いないので、変換表を格納しておく部分をなくすることができると共に、略語を使用するための使用者にかかる負担は、一度完全綴りを入力することだけである。しかし、これも、文書を入力しながら行えるので、実際は、ほとんど負担は無い。さらに、略し方も固定されないので、略語が非常に簡単に使用できる効果がある。他の実施例を第2図に示す。

鍵盤1から入力された文字列は、判定部2で完全綴りか略語かを認識され、完全綴りの場合は、表示部3へ送られると共に単語表作成部7で単語表8に登録され、また、記憶部4に記憶される。略語が入力された場合は、表示部3に送られると共に、単語表検索部9で単語表8を検索する。展

出する語が見つかり、展開部6で完全綴りに展開し、表示部3に送ると共に、記憶部4に記憶する。

本実施例においては、単語表9を用いることによって、検索の速度を向上させることができる。また、単語表の大きさも、多くの使用者に共通の変換表よりは、ずっと小さなもので可能である。

以上の点を除けば、第一の例と同様の効果がある。

第3図は、上記実施例の一変型で、完全綴りが入力された場合、入力時点において指定(例えばファンクションキー等)された語のみが単語表作成部7に送られ、単語表8に登録され、その他の語は、そのまま記憶部4へ送られる。略語が入力された場合は、上記実施例と同様にする。

本実施例においては、使用者に略語の対象になる語を選択させることによって、単語表を小さくし、またそれによって検索速度を上げることが可能となる。

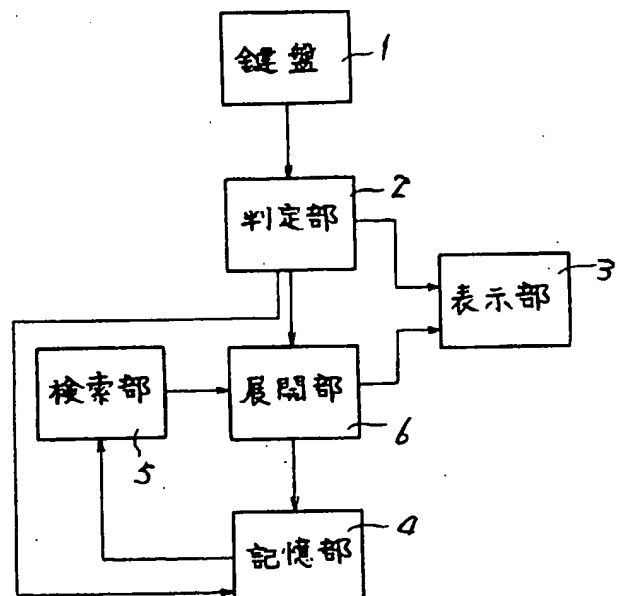
4. 図面の簡単な説明

第1図及び第2図は本発明の一実施例を示す図、第3図は第2図の変形例を示す図である。

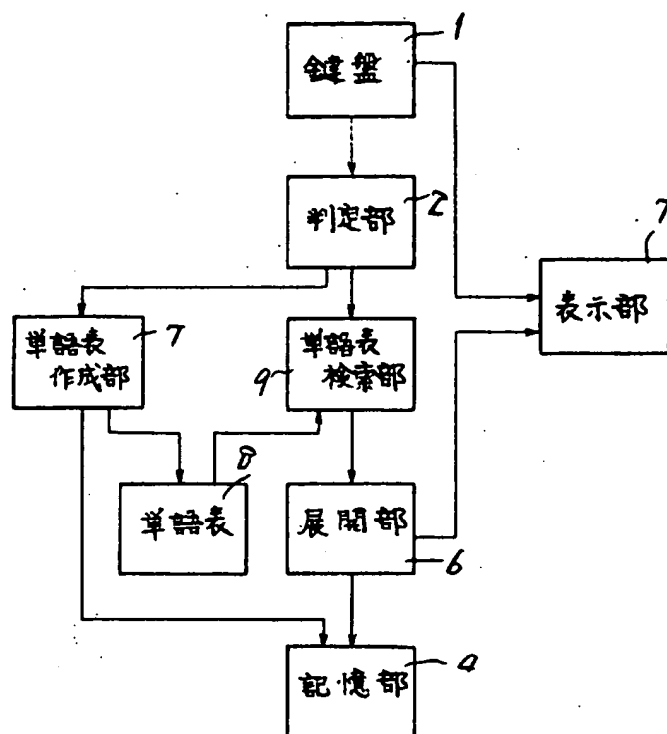
- | | |
|-------|-------|
| 1…鍵盤 | 2…判定部 |
| 3…表示部 | 4…記憶部 |
| 5…検索部 | 6…展開部 |

代理人 弁理士 則 近 康 佑
(ほか1名)

第 1 図



第 2 図



第 3 図

